

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 事業所番号 (0191300102), 法人名 (株式会社 ケーサポート), 事業所名 (グループホームヤマブキの家 1F), 所在地 (北広島市中央4丁目7番5号), 自己評価作成日 (平成29年6月30日), 評価結果市町村受理日 (平成29年8月3日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0191300102-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 評価機関名 (タンジェント株式会社), 所在地 (北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内), 訪問調査日 (平成29年7月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所してから1年が経過しました。ヤマブキの職員は、他施設や他サービスを経験してきた職員で構成されており、知識・技術は十分にあります。これまでの1年は、入居の促進と目先のケアにとらわれてしまい、運営について具体的な実践が難しい状況にありましたが、職員も開設から1年を経験し、徐々に気持ちに余裕が出てきたため、広い視野で物事を見れるようになってきたと思います。特に、日々の生活の中で、入居者の余暇時間の充実や個別ケアについて考えるようになり、「こんなことがしてみたい」、「あんなことを入居者と一緒に行ってみよう」、「もっとできることは無いか?」と自発的な意見が出てきています。その手始めに、社会福祉協議会にご相談し、毎月1回、地域のボランティア(複数の団体)の方々に協力を頂き、ミニコンサート(楽器の演奏や歌を歌って頂くなど)の開催を行っており、今後も継続予定です。また、日々の散歩や少人数にグループ分けをしての外出を実施し、入居者の生活の活性化を図っています。また、今後は地域のお祭りへの参加や、当該事業所で行う行事に近隣住民に参加して頂けるように呼びかけを行っていく予定です。地域との交流や地域に出て行ける環境を積極的に作り、更に地域の方々が無難に足を運べるような事業所作りを目指し、地域との繋がりを絶やさないよう、力を入れていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR北広島駅より徒歩で7分の幹線沿いの病院や小学校、住宅街が立ち並ぶ交通の利便性に優れた地域に小規模多機能型居宅介護事業所併設の開設2年を迎える木造モルタル2階建て2ユニット(定員:18名)のグループホームです。一人ひとりのその日の希望に沿って、新千歳空港や由仁ガーデン見物、大型ショッピングセンターでの買い物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、毎月地域ボランティアの協力を得てハーモニカやフルート&キーボード演奏会の開催で歌唱を楽しんだり、地域のお祭り参加等で地元の人々との連携や交流する機会を設けるよう取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (1-4), and Evaluation (O/empty circle). Rows 56-62 cover various aspects of staff, user, and family satisfaction and support.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が交代してから、改めて運営理念の読み合わせと意味の解釈、今後の方向性について話し合いを行い、理念に近づけられるよう日々実践している所です。	事業所独自の理念を作り、ホーム会議やフロア会議等を通じて話し合い、その理念を職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでの1年は、やや閉鎖的な状況がありましたが、玄関の施錠を外しドアを開放するところから始め、そこから徐々に職員が自発的に入居者を連れて散歩や買い物に出かけるようになりました。自然に地域とつながる方法を考えて実践したい。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、毎月地域ボランティアの協力を得てハーモニカやフルート&キーボード演奏会の開催で歌唱を楽しんだり、地域のお祭り参加等で地元の人々との連携や交流する機会を設けるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生かし切れていません。今後、事業所のPRと併せて、認知症の理解が得られるよう情報の発信を行いたい。(介護相談や知識・技術についての研修会の開催、回覧板などを活用しての伝達など。)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際については伝達が出来ているが、具体的なディスカッションが出来ていないため、今回の事業所評価を機に、意見の吸い上げ⇒サービスに反映させるようにしていきたい。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の取り組み状況や日常生活の様子等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己判断をせず、不明な点や、自治体の見解を伺いたい状況の時には、担当者に連絡を行い、事業所の状況をお伝えしながら意見を求めるようにしています。	市担当者との連携の重要性を認識し、日常業務を通じた報告や情報交換、助言等を得るなど協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当該法人は過去の事故を教訓に、安全上の理由から日中の施錠を行っております。また、当該事業所も国道に面しているため交通量も多いので施錠を行うことがあります。しかし、管理者が滞在しているときには解錠し、気温の高い晴れた日にはドアの開放を行い、職員の連携のもと、外部徘徊の危険性を回避できるように努めています。	指定基準にある身体拘束の具体的な禁止の対象となる行為を内部研修会の開催や日常業務を通じて正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は日頃のコミュニケーションを通して職員との関係構築を図り、些細な情報でも得るように努めています。また、フロアの巡回や入居者との交流にて異変に気づけるよう配慮するとともに、朝礼や会議等で虐待防止に触れ、意識付けを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が持てていないため、今後の課題としていきます。過去に成年後見制度を利用されていた入居者がおりましたが、退去されました。但し、全職員には十分な周知及び制度の説明は行っていないため、理解している職員は少ないと思われます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内覧時よりサービスについての説明を行うように努め、契約前には重要事項説明書とサービス契約書の見本をお渡しし、予め事前に内容の確認を行って頂いています。契約時には更に説明を加え、不明な点が無いように配慮をしています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を結成していないため、ご本人及びご家族からのご意見は直接伺うことになるため、今後は事業所独自でアンケートの実施や意見箱を設置し、ご本人、ご家族からのご意見が吸い上げられるように致します。	第三者機関への苦情等の申し出先、苦情受付担当者を明示し、来訪者や本人・家族等が意見や苦情等を言い表せる機会を設けている。また、そこでの意見等を運営に反映できるように話し合う機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内では年1回のアンケートの実施を行い、意見や提案の機会としています。また、当該事業所では月に1度のフロア会議やホーム会議を実施し、職員間の意見交換の場を設けています。	ホーム会議やフロア会議を通じて、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の他、研修参加の推進や資格取得に際しての支援、処遇改善手当の支給を行い、職員のやりがいや向上心に繋げています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の推進を行っており、スキルアップの機会を設けています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内の同業者が構成している連絡会に加入し、それを軸に、他事業所間の交流の取り組みを行っています。主に事業所訪問であるため、今後は交流会の開催などを検討していく予定。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して頂けるような接し方に配慮をしています。状態変化のある入居者には、その都度ニーズの検討をし、安心に繋がるための関係づくりに努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりもADLが低下しないよう、維持を目標にしていますが、日常生活の様子を小まめに報告し、信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を確認し、把握するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者に対し尊敬の念を持って関わるように努め、知恵や工夫を教わるように心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族の面会時や来訪者があった場合には、必ず声をかけ、近況報告や意見を求めるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪された時には、ゆっくりと過ごせるよう配慮しています。	散歩や買い物、毎月地域ボランティアの協力を得た行事の開催や地域の行事参加等、地域の人々との交流で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりあえるように、職員は仲介を行い、時には入居者同士が気に留めて頂けるよう、配慮をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へのフォローは十分ではないため、お手紙などで近況を伺うようにしていきたいと思っております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で感じた事は、本人の希望を確認したうえで申し送りや話し合いを行い、一人一人の思いの把握に努めています。	一人ひとりの暮らし方の希望や意向を把握して、毎月のフロア会議で話し合い、職員間で情報を共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所のアセスメントにて不十分な場合には、ご家族からも確認するようにし、これまで過ごしてきた生活が、GHでも継続できるよう配慮をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人とのコミュニケーションの中で、現状の把握に努めるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向はもちろん、職員からの気づきや提案をもとにし、工夫しながらケアが出来るよう、介護計画書の作成に配慮をしています。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望、モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録の記入、報告を行い、職員間での情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対して、どうすれば実現できるかを職員みんなで考え、柔軟対応に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については要課題ではあるものの、GHの場合にはボランティアの受け入れが中心となると考えられるため、ボランティアの受け入れは行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時には状態を報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。	受診は、本人・家族等が納得したかかりつけ医となっている。また、往診や通院等への支援、日常の健康管理で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の情報や気づきを訪問看護職員に相談し、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、ホームでの生活状況をMSW及び看護職員へ伝達しています。また、退院に向けてMSWを通して情報交換を行ない、ホームの受け入れ態勢を整えて行けるよう配慮をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	予め契約時にご家族のお考えを聞かせて頂くように努めています。事業所内ではCMを中心に情報共有を行い、主治医とも連携を図っています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っているとは言い難いため、今後の課題としていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分に身に付けているとは言い難いため、今後の課題としていきます。	地域の協力が得られるように避難訓練を実施している。また、自然災害(水害・地震等)の対応についても検討している。	今後は、事業所で行う防災訓練の際には地域の方々にもご参加いただけるように呼びかけを行うことを検討しているので、その実践に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した対応に努めています。	フロア会議や内部研修会を開催して、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞きれるよう努めています。例)飲み物や食べたい物の希望や、したいことなどを引きだすようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人のペースを大切にし、希望に沿って支援するよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、整髪を促し、その方の意向を聞いた服の準備を一緒に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けは、一人一人の出来る事を生かしながら取り入れています。	一人ひとりの力を活かしながら、食器洗いや後片付けなど職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については、いつでもご自分で注げるよう、テーブルの上にはお茶のピッチャーとグラスを用意しています。水分の少ない方には、好みのものを提供できるよう、飲み物を数種類用意し、食事が少なめの方には捕食できるよう、おやつを用意などしてます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた口腔ケアの支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	むやみのオムツの使用をしたり、逆に無理なオムツ外しを行うことで自尊心を傷つけないよう、一人一人の状況に応じた排泄支援を行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・運動を意識した働きかけを行いつつ、排便状況を職員間で情報共有し、一人一人の状況に応じた対応を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	極力、一人一人の希望に合わせた入浴日にて対応しています。まれに拒否があることも想定されるため、その場合には本人の意思を尊重しつつ、気持ちを転換できるようなかかわりて入浴に導いています。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて柔軟な入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも対応した柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や疾患などの状況に応じて、安心して休まれるよう、休息時間の確保に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、薬表一覧を基に確認し、服薬の支援を行っている。症状の変化には気を配り、職員間の情報交換を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を見極め、出来る事・出来ない事を確認し、役割を担って頂き、楽しみごとを支援するようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿って外出の機会を設けていきたいと考えているが、外出の意欲が希薄になっているため、排出が楽しみとなるような関わりを行っていきたいと思っています。	一人ひとりのその日の希望に沿って、新千歳空港や由仁ガーデン見物、大型ショッピングセンターでの買い物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は入居者個人には行って頂いていないため、買い物の際に職員に代わって支払いをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があった場合には、取次ぎをさせて頂き、出来るだけご本人の気持ちに沿った対応に努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	楽しく過ごせるよう、明るく心地よい雰囲気作りに努めています。また、音や光、温度の加減に配慮し、適度な生活音の中で過ごすことが出来るよう配慮しています。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示などで生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う入居者同士で座れたり、会話ができるよう配慮し、また、時には居室や一人で過ごす時間が持てるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒やベッドを持ち込んでいただき、安心して居心地の良い工夫を行っている。	居室には、使い慣れた家具を持ち込まれたり、家族等の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動しやすい空間を作り、安全に配慮しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300102		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホームヤマブキの家 2F		
所在地	北広島市中央4丁目7番5号		
自己評価作成日	平成29年6月30日	評価結果市町村受理日	平成29年8月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0191300102-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所してから1年が経過しました。ヤマブキの職員は、他施設や他サービスを経験してきた職員で構成されており、知識・技術は十分にあります。これまでの1年は、入居の促進と目先のケアにとらわれてしまい、運営について具体的な実践が難しい状況にありましたが、職員も開設から1年を経験し、徐々に気持ちに余裕が出てきたため、広い視野で物事を見れるようになってきたと思います。特に、日々の生活の中で、入居者の余暇時間の充実や個別ケアについて考えるようになり、「こんなことがしてみたい」、「あんなことを入居者と一緒に行ってみよう」、「もっとできることは無いかな?」と自発的な意見が出てきています。その手始めに、社会福祉協議会にご相談し、毎月1回、地域のボランティア(複数の団体)の方々に協力を頂き、ミニコンサート(楽器の演奏や歌を歌って頂くなど)の開催を行っており、今後も継続予定です。また、日々の散歩や少人数にグループ分けをしての外出を実施し、入居者の生活の活性化を図っています。また、今後は地域のお祭りへの参加や、当該事業所で行う行事に近隣住民に参加して頂けるように呼びかけを行っていく予定です。地域との交流や地域に出て行ける環境を積極的に作り、更に地域の方々が無難に足を運べるような事業所作りを目指し、地域との繋がりを絶やさないよう、力を入れていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が交代してから、改めて運営理念の読み合わせと意味の解釈、今後の方向性について話し合いを行い、理念に近づけられるよう日々実践している所です。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでの1年は、やや閉鎖的な状況がありましたが、玄関の施錠を外しドアを開放するところから始め、そこから徐々に職員が自発的に入居者を連れて散歩や買い物に出かけるようになりました。自然に地域とつながる方法を考えて実践したい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生かし切れていません。今後、事業所のPRと併せて、認知症の理解が得られるよう情報の発信を行いたい。(介護相談や知識・技術についての研修会の開催、回覧板などを活用しての伝達など。)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際については伝達が出来ているが、具体的なディスカッションが出来ていないため、今回の事業所評価を機に、意見の吸い上げ⇒サービスに反映させるようにしていきたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己判断をせず、不明な点や、自治体の見解を伺いたい状況の時には、担当者に連絡を行い、事業所の状況をお伝えしながら意見を求めるようにしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当該法人は過去の事故を教訓に、安全上の理由から日中の施錠を行っております。また、当該事業所も国道に面しているため交通量も多いので施錠を行うことがあります。しかし、管理者が滞在しているときには解錠し、気温の高い晴れた日にはドアの開放を行い、職員の連携のもと、外部徘徊の危険性を回避できるように努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は日頃のコミュニケーションを通して職員との関係構築を図り、些細な情報でも得るように努めています。また、フロアの巡回や入居者との交流にて異変に気づけるよう配慮するとともに、朝礼や会議等で虐待防止に触れ、意識付けを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が持てていないため、今後の課題としていきます。制度がどのようなものか理解はしているつもりですが、現在は活用に適した入居者はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内覧時よりサービスについての説明を行うように努め、契約前には重要事項説明書とサービス契約書の見本をお渡しし、予め事前に内容の確認を行って頂いています。契約時には更に説明を加え、不明な点が無いように配慮をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を結成していないため、ご本人及びご家族からのご意見は直接伺うことになるため、今後は事業所独自でアンケートの実施や意見箱を設置し、ご本人、ご家族からのご意見が吸い上げられるように致します。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内では年1回のアンケートの実施を行い、意見や提案の機会としています。また、当該事業所では月に1度のフロア会議やホーム会議を実施し、職員間の意見交換の場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の他、研修参加の推進や資格取得に際しての支援、処遇改善手当の支給を行い、職員のやりがいや向上心に繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の推進を行っており、スキルアップの機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内の同業者が構成している連絡会に加入し、それを軸に、他事業所間の交流の取り組みを行っています。主に事業所訪問であるため、今後は交流会の開催などを検討していく予定。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が困らずに生活できるように、ご本人から表出できるよう会話は大切にしています。安心して過ごせるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安、ホームでの生活で希望すること等を、入居時からゆっくり聞く事を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の話を聞きながら、必要としているサービスや支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きやモップがけ、チラシでのごみ箱作りなど、入居者の出来る事を見つけ、職員は一緒にいき、入居者のサポートに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との会話の中で表出された、何気ない事柄をご家族にも伝えるようにし、ホームでの生活状況の把握をして頂くようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人等が来訪された時には、ゆっくりお話しが出来るよう、場所の提供や近況報告を行い、支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のその日の体調や気分に応じて仲介できるよう配慮をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へのフォローは十分ではないため、お手紙などで近況を伺うようにしていきたいと思っております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意向や思いに沿える様、職員間で情報共有や話し合いに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や思いを汲み取りつつ、日頃の入居者との関わりを通して、ご本人からのお話を基に把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のその日の体調や様子を確認しながら対応をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議や日々の打ち合わせ時に、問題点や気づきについて話し合い、介護計画書に反映できるように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の情報を生かしながら、職員間での情報記共有と併せて介護計画書の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の希望を基に、どのようにしたら実現できるかを話し合い、工夫をしながら対応するように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については要課題ではあるものの、GHの場合にはボランティアの受け入れが中心となると考えられるため、ボランティアの受け入れは行えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望を大切にし、訪問診療や受診の対応をしています。気づいた点についてはご家族に報告の上、主治医にも相談するように努め、適切な対応をして頂けるよう努めています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の情報や気づきを訪問看護職員に相談し、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、ホームでの生活状況をMSW及び看護職員へ伝達しています。また、退院に向けてMSWを通して情報交換を行ない、ホームの受け入れ態勢を整えて行けるよう配慮をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	予め契約時にご家族のお考えを聞かせて頂くように努めています。事業所内ではCMを中心に情報共有を行い、主治医とも連携を図っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っているとは言い難いため、今後の課題としていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分に身に付けているとは言い難いため、今後の課題としていきます。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けするときにはご本人の様子を確認し、人格を尊重した対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服やパジャマ、飲み物等、ご本人に希望を確認し、自己決定できる場面作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人のペースを大切にし、その日をどのように過ごして頂くか、ご本人の希望に沿いながら対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつもと違う服を着ている時などは声掛けし、気分が良くなるよう配慮をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員任せとならぬよう、入居者にも出来る事を考え、参加して頂くようにしています。また、片付けについても皆が参加できるよう、方法の検討を重ねています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量には配慮し、少ない場合にはご本人の好き物や食べたい物を提供できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助を要する方への配慮は徹底していますが、自力で出来る方への支援が不十分かもしれないため、見直しをしていきます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居当初、リハビリパンツを使用していた方が、布パンツに変更することが出来ました。ご本人の機能や習慣を生かした支援に心掛けています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には食事・水分・運動への配慮を行い、それでも改善に至らない場合には、医師に相談し下剤の処方などをして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご本人が入浴を希望されている場合には、気分が変わらないうちに入浴して頂くよう、勤務の調整や職員の動きに工夫をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動や活動に努め、夜間の安眠に繋げるように配慮をするとともに、高齢の方や疲れやすい方には、日中の休息にも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬についても、変化に注意し、異常が見られた場合には、自己判断せずに訪問看護師や医師に相談するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意なことや、やれることを見つけ、役割や気分転換の支援に努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場の外出は難しいものの、春～秋には気分転換のため散歩や買い物支援などに努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は入居者個人には行って頂いていないため、買い物の際に職員に代わって支払いをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があった場合には、取次ぎをさせて頂き、出来るだけご本人の気持ちに沿った対応に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるよう、環境整備に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの席については、ご本人の意見を取り入れ、また、入居者同士のトラブルが回避できるよう、職員間でも検討を重ねています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の様子を確認しながら、その都度対応をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室が分かるよう、目印を付けるなど配慮をしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ヤマブキの家

作成日: 平成 29年 7月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	3	事業所の力を活かした地域貢献については、生かして切れておらず、事業所の存在をアピールする必要がある。	気軽に事業所に立ち寄って頂ける環境作り。	今後、事業所のPRと併せて、認知症の理解が得られるよう情報の発信を行いたい。(介護相談や知識・技術についての研修会の開催、回覧板などを活用しての伝達など。)	6か月
2	8	権利擁護に関する制度の理解と活用が不十分である。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持てるようにする。	内部研修の実施及び不足の部分については外部研修が受講できるよう配慮し、併せて伝達研修を行い、職員への周知と共に必要性について話し合いを行っていく。	6か月
3	34	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員に対し応急手当や初期対応の訓練を定期的に行うことが出来ていない。	利用者の急変や事故発生時に、職員全員が落ち着いて行動が出来るよう、基本的な知識と対応方法を身に付けられる。	訪問看護ステーションに協力を得て、事例を基に知識や技術をより深められるように、対応方法を指導してもらえる機会を定期的に作っていく。	6か月
4	35	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけているとは言えず、地域との協力体制も築けていない。	災害時に職員がスムーズに行動でき、尚且つ地域の方々に協力が得られる。	日頃の関わりと、事業所で行う防災訓練の際には地域の方々にもご参加いただけるように呼びかけを行う。	6か月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。